

業務部速報



No. 84

発行 17. 3. 3

JR東労組 業務部

申15号「2017年度賃金引き上げに関する申し入れ」第2回交渉を行う!

- 本日3月3日はJR東労組結成の日である。国鉄改革から30年が経過した。3本柱や広域異動に応じて施策を担い、今のJR東日本の礎を築いてきた。そのことから組合の要求に応えるべきだ。
- 純利益や内部留保は増加している。会社の内部にため込むのではなく社員に配分すべきだ。
- 2018年度新規採用が始まった。企業を選ぶ基準は賃金が高い。初任給を上げると同時に全体の賃金を魅力的なものにしないと会社の主張する「優秀な人材」が集まらない。
- 「突出感」について、今後のJR東日本を考えると、優秀な人材を確保するために、あえて突出感を出して、満額回答したJR東日本であると訴え、人材確保に結びつけるべきだ。
- 社会全体として、人件費や原材料費が高騰している。その認識があるのであれば、私たちの賃金も上がらなければ整合性がない。
- 一律に大きくベースアップを行うことにより賃金を上げる重要性は大きい。人手不足で一定程度の人件費を上げないと業務が回らなくなる。全体の底上げという視点で賃金上昇は社会的に求められている。我々の要求は決して突出していない。
- この間の格差ベアによって発生した格差が一生ついてくることを組合員は問題視している。格差是正の800円要求を受け止めるべきだ。
- 一人あたりの労働生産性は大企業の中でも屈指の高さであり、その源泉である組合員の労苦に応えるべきだ。
- 今春闘で、社員、グリーンスタッフとも満額で賃金を引き上げるべきだ!!

会社

- 日本経済は、月例経済報告やGDP速報値から見ても、まだまだ力強さがない。
- 世界経済も、原油のWTI価格は落ち着いているが、OPECの状況によっては変化する可能性がある。為替も乱高下を繰り返している。
- 長期金利も、日本はマイナス金利であるが米国は利上げに入っている。日本もいつ利上げになるかは分からない。そうすると、3兆円以上の長期債務を抱えていることを無視できない。
- 新幹線大規模改修引当金の積み立ては大きい。さらに、追加の安全投資もある。
- 北陸新幹線や北海道新幹線の反動減を考えると、運輸収入も厳しい状況と言える。
- 平均勤続年数が若返り、社員数も減ってきている。生産性が上がっているのは間違いない。
- 社会全体の労働者不足で、労務単価が上がらないと人が集まらない現状も認識している。
- 人件費には、直接部分以外にも社会保険や退職金引当積立などがある。
- JR東日本全体の資産は増えている。安全やサービスへの投資の結果である。
- JR東日本の賃金水準は決して低くはない。その中で賃金を上げるとなれば、マスコミも含めて大きな話題になっていく。
- 今後もIT化やシステム化、技術革新などへの対応をしていくことで、効率的な業務執行体制を構築していきたい。
- 日本や世界の、当社の状況などを見ていくと、先行きは不透明であると言わざるを得ない。
- 世間の状態も見て対応していくことが必要になる。
- 組合の提起は受け止め、真摯に議論していきたい。

組合

各部会・系統からの声を会社にぶつける!!

営業

- 効率化により社員数が減少し要員不足である。ギリギリ持ちこたえている状態だ。
- 声かけサポート運動も人がおらずままならない。情報提供しても、相手駅が対応出来ない、人がいないと断られる。利用者からも「そんなに社員がいないのですか」と驚かれる。現場で汗して働く組合員にしっかりと分配する事を求める。

運車

- 多くの会社が優秀な人材確保に向けて「働き方、休み方改革」を進めている。JR東日本は休日出勤前提の要員不足を常態化させ、時代に逆行し社員に責任と負担を強いている。
- いかに機械化、システム化を進めようとも、正常に運営する基礎は人間に委ねられている。JRにおいて一番重要なことは人への投資である。

工務

- 世代交代が進み、要員減少の中、個人の負担は増えているが、安全安定輸送に向けて昼夜を問わず検査を行い、障害発生時や災害時は事後の調査や報告含めて奮闘している。
- 保守ばかりではなく、工事各系統で増えており、現場では日々業務に追われる中で組合員は精一杯頑張っている、納得のいく回答を求める。

かんい

- 公私に亘って社員の悩みや不安解消に向けて取り組むと共に、社員とのコミュニケーションを深めながら、後継者の育成をしている。
- 36交渉の関係では、組合が早期の締結を求めていたのにも関わらず、二重勤務作成を会社から強いられ「いったい誰のために何のために勤務を作っているか分からない」と組合員は嘆いている。モチベーションをこれ以上上げることは許さない。

会社は現場第一線でJR東日本の安全・安定輸送を担う私たちの声を真剣に受け止めるべきだ!

きかく

- 会社の打ち出した施策を先頭で推し進めているのはきかく部門で働く組合員である。
- 異常時には本来業務をさしおき、早期復旧を目指して駅や現場支援に駆けつけ、指令とも連携して対応している。
- 明日のJR東日本の礎をつくるために奮闘する社員に還元すべきだ。

建工

- 駅改良や耐震補強、オリンピック・パラリンピック関連プロジェクトをはじめ、鉄道事業、生活サービス事業、地域連携に資する工事などを着実に推進している。
- 入社年次の若い組合員が半数を超え、多忙を極める業務の中で、教える側も教えられる側も奮闘している。モチベーション向上のためにも要求に応えるべきである。

医療

- 業務外でも自己負担で最新医療に従事していくスキルを身につけるため、医療学会が主催する勉強会に参加する組合員が大半だ。この努力なくして、医療の安全と安心はない。
- 内部留保ではなく、社員へ還元し、人的資源の価値を高めることが重要である。

青年部

- どの系統でも、どの職場でも少ない要員の中、若手組合員は奮闘している。
- 世代交代が課題の中で、次代を担うのは、若手組合員である。設備・施策への投資もあるが、その設備を扱うのは人である。人への投資を行うことが必要である。

全ての職場が一体となってたたかいを創りだし回答指定日までに満額回答をかちとろう!